

番号	SS部門名	SS部門名(英文訳)	主オーガナイザ	副オーガナイザ	SS概要(300字以内)	発表者全員の氏名
1	ITSのこれからを考える		松本修一(慶應義塾大学)		ETCやカーナビなどの普及、IT技術と道路との融合により、ITSは先進技術の検討段階から社会に浸透させるための新たな段階となるべき転換期を迎えている。また、電気自動車やエネルギー問題、防災・耐災など新たな諸課題にITSがどのように貢献すべきかという議論もはじまってきた。更には、今後の予算の枯渇に対し道路の維持管理にもITSが寄与出来る時代が到来する。本スペシャルセッションでは、国内外のITSの動向を踏まえ、日本のITSが長期的に世界のトップランナーとして有り続けるための方向性を議論する。	家田仁(東京大学) 上田敏(国土技術政策総合研究所) 奥村康博(国土交通省) 藤原章正(広島大学) 牧野浩志(東京大学)
2	京都から安寧の都市を考える。その意義と展望について		安東直紀(京都大学大学院工学研究科)		我々の都市・社会は、産業構造の変化、伝統的な家族形態の変化や地域コミュニティの衰退を背景とする人口減少の進行などにより、高齢社会への対応、地域社会の再構築、持続可能な社会構造の再編などのこれまで経験しなかった課題に直面している。こうした状況に対して、京都大学では医工融合による「安寧の都市」という新たな都市のあり方を提起している。本SSでは、安寧の都市に関するアメニティやクライシスなど多様な視点から期待と課題に関する意見交換を行うとともに、その実現方策に関する展望についての示唆を得ることを目的とする。	コーディネーター: 谷口栄一、京都大学大学院工学研究科・教授 安東直紀: 京都大学大学院工学研究科・特定准教授 三谷智子: 京都大学大学院医学研究科・特定准教授 山田圭二郎: 京都大学大学院工学研究科・特定准教授 小山真紀: 京都大学大学院工学研究科・特定准教授 孔相権: 京都大学大学院医学研究科・特定助教
3	土木計画学のあり方: 今と未来		西井和夫(流通科学大学)		土木計画学のあり方小委員会が実施した意識調査をもとに、土木計画学に参加している関係者のパリエーション、活動状況(『今』)、将来への展望、これからの委員会活動への視座(『未来』)などについて分析結果を報告する。また、それらを踏まえて土木計画学のあり方に関する長期的な戦略課題についても話題提供者(ゲスト)をおよびフロアを交えた討議を行う。	セッション・オーガナイザー: 西井和夫、流通科学大学・教授 話題提供者: 山中英生、徳島大学大学院・教授(計画学委員会副委員長) 田村 亨、室蘭工業大学・教授(計画学委員会副委員長) コメンテーター: 久保田 尚、埼玉大学大学院・教授 谷口 守、つばき大学大学院・教授 毛利雄一、IBS・室長、白水靖郎 中央復建コンサルタンツ 江守昌弘、建設技術研究所 田名部 淳、地域未来研究所
4	交通途絶と地域孤立を考える	Special Session for Stoppage of Transportation and Regional Isolation	奥村 誠(東北大学)	なし	自然災害や豪雪、台風などの襲来時など、わが国をはじめとする多くの地域では交通が途絶し、地域の孤立が発生している。これまでの道路の整備と除雪体制の強化などで、このような途絶の発生を回避するための努力がなされてきたが、そのような事業の効果を計測する方法論は確立しているとは言いがたい。本セッションでは、このような交通途絶と地域の孤立の事例の報告、評価の方法論、予測の方法論について、多方面から議論を行い、研究課題の方向性を見出すことを目的とする。	コーディネーター: 奥村誠・東北大学・教授 浜岡秀勝・秋田大学・准教授 塚井誠人・広島大学・准教授 神谷大介・琉球大学・助教 藤原潤子・総合地球環境学研究所・上級研究員(非会員)
5	暮らし創生ビジョン～人が変わる、まちが変わる、暮らしが変わる～		浜田誠也(財団法人道路新産業開発機構)	吉田 勲((株)建設技術研究所)	道路都市再生部会((財)道路新産業開発機構が事務局)では、これまで、少子高齢化や人口減少、環境、地方の衰退などの課題について、元気な日本の復活を目指した都市のあり方を検討してきた。今回は、東日本大震災を受け、防災に関する視点を加え、「都市のあり方」や「都市の未来像」について、さらに検討を進めてきた。この検討は、「環境」、「高齢者」、「産業育成」、「人材育成」、「暮らし」をキーワードに、「元気な日本の復活」に資するインフラ整備や施策の事業スキームや官民が連携によるビジネスモデル等を提案するものである。本セッションは、提案内容を多くの方と議論し、ビジョンの熟度をさらに高めることを目的とする。	・浜田 誠也:(財)道路新産業開発機構 (道路都市再生部会 事務局長) ・吉田 勲:(株)建設技術研究所 ・福田 裕恵:(株)建設技術研究所 ・大西 康弘:(株)オリエンタルコンサルタンツ ・玉岡 秀敏:パシフィックコンサルタンツ(株) ・鈴木 葉子:(財)道路新産業開発機構 ・加藤 宣幸:(株)建設技術研究所
6	交通まちづくりの計画手法 ー都市構造に関わる制度から考えるー	Methods of Transportation Planning for 'Machizukuri' ーHow do we manage urban form?ー	原田昇(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻)	谷口守(筑波大学大学院システム情報系社会学域)	まちづくりに貢献する交通計画「交通まちづくり」は、問題解決型ではなく、望ましい生活像を提案する価値創造型の計画であり、その実現のためには従来手法と発想の異なる新しい計画手法(ビジョン構築、調査体系、制度設計など)の開発が必要である。本スペシャルセッションでは、その中でも交通まちづくりを支える都市構造に関わる諸制度に初めて統括的に光をあてる。具体的には駐車場整備のコントロール、集約化都市づくりの関連法制度、最新の国際的動向、いくつかの試案を踏まえ、わが国の今後の制度設計のあり方について批判的検討を行う。なお、本セッションは「交通まちづくりの実践」研究小委員会の活動に基づくものである。	大沢昌玄(日本大学)・中村文彦(横浜国立大学) 森本章倫(宇都宮大学) 松中亮治(京都大学) 高見淳史(東京大学) 喜多秀行(神戸大学) 神田昌幸(富山市) (登壇予定順)
7	地方自治体の政策形成と土木計画学		谷本圭志(鳥取大学)	秀島栄三(名古屋工業大学)	人口減少・高齢化などによる社会情勢の変化、地方分権などによる社会の仕組みの変化に伴い、地方自治体の職員には政策形成の能力が問われるようになってきている。一方、土木計画学は、従来の活動の蓄積を踏まえると、地方自治体にも様々な角度からの貢献ができる学問分野であると考えられる。しかし、土木計画学が地方自治体に広くまた十分に浸透、受容されているわけでは必ずしもない。本セッションでは、上記の文脈のもとで、土木計画学が今後どのような役割を果たすべきかについて議論する。	谷本圭志(鳥取大学) 秀島栄三(名古屋工業大学) 山口健太郎(三菱総合研究所)

番号	SS部門名	SS部門名(英文訳)	主オーガナイザ	副オーガナイザ	SS概要(300字以内)	発表者全員の氏名
8	長期的な社会基盤政策の評価分析手法の再構築:2050年の世界を視野に		堤盛人(筑波大学)	石倉智樹(首都大学東京)	土木計画学は40年余りの歴史を重ね、その分析手法が確立されてきた。しかしながら、これまでの土木計画学的手法の多く、特に数理計画法を援用したモデル分析では、概ね10年ないし20年程度の将来を念頭にしてきた。一方、少子高齢化、財政問題、環境問題、食糧問題、エネルギー政策など、われわれが直面している社会・経済リスクの多くが、より長期的な影響を含むことが指摘されている。そこで、2050年をターゲットイヤーとして、これまで蓄積された土木計画学的モデル分析をもう一度見直し、あらたな土木計画学におけるモデル分析のパースペクティブについて集中的に議論する。 具体的には、長期的な社会基盤政策を考える上で、交通需要予測モデル、土地利用モデル、応用一般均衡モデルなどの既存モデルを対象として、これまでの方法論の限界を示したうえで、新たな理論的・実証的モデルとして、これらを包括的かつ長期的分析に耐えるように再構築する方向性を検討する。	話題提供: 小林潔司(京都大学)、 中尾拓也(鳥取大学:発表者)・小池淳司(神戸大学)、 山崎清(価値総合研究所)
9	計画・事業への参加による地域力の向上	The community Empowerment by People's Participation for the project and planning	山田稔(茨城大学)	猪井博登(大阪大学)	公共交通、交通静穏化、商業活性化、バリアフリー、地域防災、有償運送など、参加型あるいは市民・住民主体の事業が、さまざまな分野で成果をあげて来ている。これらの事業では、参加によるその事業自体の効率化だけでなく、地域力の向上を、暗黙のうちにあるいは明示的な目的の一つとして期待されることが少なくないと考えられる。そこで、これらの事業で住民参加に取り組んできた研究者・実務者を集め、地域力の向上の方法およびその影響の把握について議論を行う。	予定登壇者: 山田 稔 茨城大学 横山 哲 株式会社ドーコン 大島 明 株式会社国際航業 江守 央 日本大学 石塚 裕子 財団法人大阪府都市整備推進センター 猪井 博登 大阪大学
10	東日本大震災後の物流:何が起きていたか?今どうなっているのか?	Logistics after the Great East Japan Earthquake	柴崎隆一(OCDI)		東日本大震災の発生により、被災地域を中心として物流も大きな影響を受けた。本SSでは、土木計画分野において被災後の物流に着目して調査研究を行っている各研究者・グループより、震災後約1年を経過した時点での成果(判明した事実・今後の課題)についてご報告いただき、主たるテーマとしては、被災直後の緊急物資輸送と、通常の物流の被災・復旧の2つにわけられる。	登壇者(登壇予定順): 福本潤也(東北大学) 谷口栄一(京都大学) 邊見充(国土交通省東北地方整備局) 柴崎隆一(OCDI) 兵藤哲朗(東京海洋大学) コメント:岡本直久(筑波大学) 司会:柴崎隆一
11	アイデンティティと計画	Identity and Infrastructure Planning	大西正光(京都大学)	鄭蝦栄(京都大学)	これまでの土木計画学で採用されてきた多くの政策は、分析者が個人的な選好をア prioriに想定したシステム工学的なアプローチによって導き出された結果に基づいて形成されてきた。しかし、地域やさまざまな社会的なドメインの中で形成される「アイデンティティ」が、人々の行動に多大な影響を与えている事実は、枚挙に暇がない。土木計画学においても、社会的に形成される規範に着目した研究が現れつつあるが、政策論との関係において体系的に論じる枠組みが整っているわけではない。本スペシャルセッションは、「アイデンティティ」が果たす役割を積極的に認める政策を論じるための枠組みについて議論する。	話題提供者: 大西正光(京都大学) 鄭蝦栄(京都大学) 山口敬太(京都大学) 鈴木春菜(山口大学)
12	土木計画学分野における研究意図に関する省察	Exploratory research on "researchers' intention" in the field of infrastructure planning and management	藤井聡(京都大学)	小池淳司(神戸大学)	土木計画学とは土木計画の学であり、そして、土木計画とは土木についての計画を意味する。さらには土木とは、「築土構木」、すなわち「民の安寧を企図し、民や共同体の環境を整えていく営為」に他ならない。したがって、「全て」の土木計画学研究は、「民を濟う」ことを直接間接に「意図」したものでなければならない。果たして、現在の土木計画学は、すべからくこの正当なる意図を含むものなのか否か、万が一つにでも、この正当なる意図とは微塵も繋がりが得ぬ意図が様々な土木計画学研究を推進せしめているとするなら、それはこの分野の存続そのものすらを脅かす由々しき事態と言いうるだろう。本スペシャルセッションでは、こうした認識のもと、昨今の土木計画学の諸研究の「意図」について、自他の経験を含めながら包括的に省察、考察するものである(本SSでは、研究者としての自立を企図している若手研究者の参加を強く希望しています)。	話題提供者: 藤井聡(京都大学) 小池淳司(神戸大学) 佐々木邦明(山梨大学) 白水 靖郎(中央復権コンサルタンツ(株))